

発達と共存する形で、むしろその一環として検討されなければならない。こうした点からみるならば、子ども自らが犯罪の危険から我が身を守るということに過大の期待をかけてはいけない。子ども達が育つ環境面での改善にこそより大きな役割がある。

(4) 地域の大人・組織

<大人同志の関係について>

子どもを犯罪の危険から守っていくために、地域の大人同志の生活の仕方について少なからぬ意見が寄せられている。“住んでいるまちの人達が知り合いになれば、誰れもがお互いによく声をかけあえることができ、気安く話しができる間柄になれるといい”といった意見に象徴されるように、日常生活での近所づきあいの大切さをあげる意見は少なくない。しかし現状は、“同じ建物に住んでいても、あいさつもしない状況”が少なくなく、こうした状況が子ども達の安全のためには決してよくないことを理解している。そのために、“親子で地域の行事・活動等に積極的に参加し交流を深めている”といった意見もある。こうした活動によって、大人同志のコミュニティーを深め、子どもの顔や名前も多く地域の住民に知ってもらおうというものである。

<地域の子どもとの関係について>

“無関心にならず子ども達に目を向け、他の子どもに対しても自分の子どもと同様に関心をもつ”といった意見は少なくない。また、“昔のように子ども達をきちんと怒れる大人が必要”といった意見もある。これらの意見は、地域の大人が自分の子どもだけではなく、地域の子ども達に広く目を向けていくような環境づくりの大切さを指摘したものである。しかし、現実にはこうした環境づくりが増々難しくなっている。ここでも理想と現実にならぬギャップ（落差）があり、それに苦悩する地域の大人達の姿がある。こうした点をふまえて、“大人もできるだけ子どもと遊ぶ”とか、“父親も仕事する会社のある場所だけでなく、家族の住む場所の事をもっと知るべき”といった意見が出ている。

<自分の子どもとの関係について>

大人が自分の子どもとの関係についても注意すべき幾つかの意見がある。“家庭環境が大切である。今、心が身体の成長に比べて成長していないので、心を成長させる倫理・道徳の教育が大切”といった意見に象徴されるように、親が自分の子どもと日常的に話し合い、善悪の判断をはじめ社会生活をおくるための心の成長を促していくことの重要性を指摘している。これは、子どもが犯罪の加害者（当事者）となっていない為にも必要な事である。家庭環境の再点検も必要になってきているという自覚

は、少なからぬ大人達に広がりつつあるといえよう。

“家庭でも自分の子どもの持ち物に関心を持ち、見慣れないものはその入手経路を子どもに確認しチェックする”といった意見や、“子どもの居場所を必ず把握する”といった子どもの日常生活をできるだけ把握しようとする意見もある。これは、子どもの人権への配慮（子どもを基本的には自立した一人の人間として認める）を十分にしながら、子どもの同意と自発性を基本にすることを忘れずに取り組むべき課題であろう。

<PTAについて>

PTAの活動の現状については、肯定的に捉えている人は多くはないが、子ども達を犯罪の危険から守っていくという観点に立つと、この組織の重要性を指摘する人は少なくない。例えば、“今のパトロールは大して役立っていない。PTAの自己満足ではないか”という意見のある一方で、“地域ぐるみで危険な箇所をきちんと把握し実効性のある活動をするべき”といった意見もある。地域での子ども達の遭遇している犯罪危険の実態（危ない場所、危ない季節や時刻、犯罪の内容等）を把握した上でパトロールをはじめ対策を検討すべきだという主張であり、それを実行できるのはPTAだという期待を表明している。

“大人の引率やPTA等で協力して、安全に遊べる楽しい企画等の知恵を出し合っって子どもを守っていく”といった提案型の期待も表明されている。

子どもを犯罪危険から守っていく環境づくりをはじめ、子育ての問題について検討する時、PTAは実に奇妙な存在である。現実の活動には多くの人々が不満と失望を抱いている。しかし、現状の環境を変えていこうとすると、実に多くの期待が寄せられる組織である。このことは、会員相互の自覚的参加を促し、PTAの活動の活性化をすすめることなくして子ども達を健全で安全に育てていくことはできないことを銘記させられるものである。

<自治会・町会等について>

“子どものいる家庭に限らず、自治会等で取り組むべきだ”といった意見にみられるように、PTAや子ども会等の組織に限らないで、地域組織としての自治会や町会等への期待がある。“地域ぐるみでもっと子どもに関心をもつ体制づくりをする”といった意見のように、子どもとその親を中心にしながらも、自治会、防犯協会、老人会、商店会等々の地域組織全体で「安全安心のまちづくり」に取り組む地域体制を求める意見がある。このなかでも、子ども達同様に日常的に地域で生活する高齢者への期待は大きく、“地域のお年寄りに協力してもらい、散歩がてらに見回ってもらう”といった意見もある。

総じて、子ども達を犯罪危険から守っていくためには、地域の人々のコミュニティの大切さは殆どの住民の認識するものになっている。地域コミュニティの再生なくして、子ども達を地域で犯罪危険から守っていくことはできない。子ども達への悲惨な犯罪が多発する現状のなかから、一人ひとりの住民のレベルでもこうした理解は確認されてきているといえる。しかし、高度経済成長を契機にして、地域コミュニティを不要のものであるかのごとく衰弱させてきた現在、人々は今すぐにそうした地域コミュニティを活性化させることはできない。この理想と現実の狭間で人々は苦悩している。この現実打開の方向がみえれば、地域コミュニティの再生に向けて人々は大きな力を発揮するであろうことが予想される。

(5) 警察

子どもを犯罪危険から守るまちづくりについて警察はプロ集団としての特別の役割をもっている。

“まちで親子が変な人にかまされてつかみかかられているのを見て110番したのに、結局パトカー（警察）は来てくれない経験があります。悪いけど110番はあてにならないのかな？と思う。恐怖にふるえていた親子は通りがかりの男の人に助けられていた。おまわりさんは助けに来なかった”といった意見に象徴されるように、現実の警察活動については不満・失望は少なくない。しかし、こうした現実があったとしても、犯罪危険から身を守るためには、住民の警察への期待・要望は大きい。この組織抜きに、安全・安心のまちづくりはできないからである。こうした点から出されている要望・意見には次のようなものがある。

<現在の活動について>

“交番に警官不在が多い、いざという時に間に合わない”、“パトロールを強化してほしい”といった現状の活動についての要望が多い。住民にとって最も身近な警察は交番であり、パトロールする警官である。この点での改善を求める意見が最も多いのは当然である。交番に対する要望も「警官不在が多い」というものから、「必要と思われる場所に交番が無い」といったものもある。交番の配置をはじめ、日常活動の在り方についても、地域住民との話し合いが必要である。交番の警官の日常活動について、地域住民が理解していることが求められている。この点では犯罪の多発化多様化のなかで、警官不足という現状についても理解する住民もあり、必要な警官の増員を求める意見もある。但し、“まじめなお巡りさんをふやす”といった意見にみられるように、住民の日常生活と密着して、誠実な活動のできる警官を望むのも世相の反映であろう。パトロールについても、改善を求める意見がある。その主なものは、「必

要な箇所」を「回数」も多くしてほしいといったものである。この点でも地域の住民とコンタクトを密にし、犯罪危険の実情を十分に反映した活動が求められる。

違法行為をきちんと取り締まってほしいという意見もある。“暴走族をもっとしっかり取り締まってほしい”、“ポルノ等の看板等の取り締まり”といった意見が代表的なものである。

<住民との連携について>

日常的に警察と住民の連携の強化を求める意見が少なくない。“危険を知らせたら警察がすぐかけつけてくれるシステムの確立”、“不審者を連絡したら警察もすぐに対応してほしい”といった意見にみられるように、犯罪危険の発生時には、住民の通報にすみやかに対応できる体制をシステムとして確立してほしいといった要望である。更には、“通報者に対して犯罪者からの仕返しのない体制をつくってほしい”といった意見は少なくない。犯罪被害にあったり、犯罪現場に出くわした時に、警察に安心して通報できる体制を求めたものである。犯罪者による報復行為が子どもや大人本人に及ぶことを心配する声は少なくなく、この点での改善が切望されている。

<その他の事項について>

“人権問題に配慮しつつ犯罪歴のある人物を警察で観察チェックする”といった意見がある。こうした情報の一般開示を求める声もある。これらの事項については欧米諸国でも意見の分かれるところである。広く国民的な合意が必要とされるものであろう。

(6) 自治体行政

これまで取り上げてきた各事項も何らかの形で自治体行政が係わるものは少なくない。ここでは、それらとの重複をなるべく避けて、<教育機関について>、<公園行政について>、<児童福祉について>とりあげる。

<教育機関について>

“変質者・異常者が地域にいた場合には、せめて学校・幼稚園・保育園にはその情報を公開する”といった意見にみられるように、地域に発生した犯罪危険については教育機関が連携をとることを求めている。これにPTAや警察等も加えながら地域組織が一丸となって取り組む体制づくりを教育機関に求めるものである。情報収集やその公開については、人権問題をも十分に視野に入れた対応づくりが検討される必要がある。“「〇〇ちゃんは中学生に目をつけられている」とよく耳にします。そうした時には中学校の先生方にも注意してほしい”といった意見にみられるように、中学・高校との連携を具体化すべきといった意見もみられる。

“もっと親と子で交流する場を学校側につくってほしい”、“学校で遊ぶ時間を決めてはどうか”といった意見もあるが、こうした事を学校が中心になってやるべきかは検討が必要である。

<公園行政について>

公園については、既に検討をしてきたので一般的事項はその項を参照していただくとして、ここでは特別に多かった公園の管理について重要事項をとりあげる。

“公園に管理人を置くか見回りの回数をふやしてほしい”という意見に象徴されるように、「公園管理の有人化」を求める声は非常に高い。これを“公園内を見回ってくれる市の職員”に求めるか、“放置自転車対策のようにシルバー人材”に求めるか、“職業難の時代、監視という職業をつくり安心して住めるまちにして”といった人々に求めるかあるいは、“廃止になった「みどりのおばさん」を復活”に求めるかは検討の課題ではあるが、公園行政は空間をつくって終わりという時代は過ぎ去りつつあるといえる。“住民の要求を取り入れて公園をつくり直す”といった要望もある。公園を「犯罪からの安全」と「つかって楽しい」という二つの側面から、周辺住民や利用者と一緒に作り直すことが、既存の全ての公園に必要なになっている。行政はそうした体制を整えるべきである。

<児童・福祉等について>

繰り返しになるが、地域に中・高校生の居場所をつくる要望は重要である。この年齢層は学習塾等で生活時間を取られてはいるが、いざ地域で何かをしようとする、安心してやれる居場所がない現状である。とりわけ中学生の居場所を地域につくっていく必要がある。

“こども110番をもっと見やすく”といった意見もある。このポスターを、必要な箇所に子どもの目線によく見える所に貼っているか否かの踏査が必要である。

“冬にも5時になったらチャイムを鳴らして”といった要望もある。夏休みだけではなく、通年をして季節に合った帰宅時間を知らせてほしいという意見である。地域全体に係わることなので、地域合意をとりながら検討する必要がある。

“犯罪抑止力の十分にある刑罰を望む”といった意見もある。国民的に意見の分かれている現状であり、広い視野からの検討が必要である。